

FLC学びのエリア

<志村四中・志村坂下小・北前野小・緑小・志村小>



学校スローガン「みんなが笑顔」

令和6年6月1日

板橋区立志村小学校

校長 佐久間 康弘

令和6年6月号

志村小ホームページ

<http://www.ita.ed.jp/edu/simuraes/>

自然を感じるとき

副校長 橋本 暁

新年度が始まり2か月が経ちました。志村小学校の校庭は、4月のサクラ、5月はツツジと植物が順次開花し、季節の移ろいを様々な植物の彩で楽しませてくれます。



私が、以前5年生の担任をしていた時のことでした。

休み時間、教室で水槽の中をよ〜くのぞき込んでいる女の子を見付けました。私は、どうしてその子がよく水槽をのぞいているのか気になり、私もその水槽をのぞいてみました。その水槽の中には、小さなオレンジ色のメダカが何匹も元気に泳いでいました。その子は、満面の笑みで私に「あのメスのメダカは、おしりに卵をつけて泳いでいるよ。赤ちゃん生まれるかな。かわいいね。」と話してくれました。

そのとき、私は、その子の表情と、弾むような声を聞いて「ずいぶん変わったな。」と驚きました。なぜなら、以前からその子が昆虫や水の中で暮らす生き物を大の苦手としていたのを私は知っていたからです。その子は、きっと小さなメダカとの出会いによって、自然の感じ方が大きく変わったのではないかと思うのと同時に、「4cmほどの小さなメダカには、人の心を変えてしまう力があるんだな。」と自然のもつ神秘さ・偉大さにも胸を打たれました。

本来、子どもたちは、身の周りにある自然を「見たり」「触れたり」「感じたり」すると「なぜだろう」「不思議だな」と好奇心をもつものです。しかし、学校での探究的な学習になると、苦手意識をもっている子が多いのが現状です。もしかすると苦手意識の根本には、子どもたちの前に立つ教師自身が探究的な学びの面白さを実感していないということがあるかもしれません。

本校の生活科・総合的な学習の時間では、子どもたちが見つけた問題を、子どもたちの力で問題を解決しながら探究的な学びをすすめていきます。子どもたちは、問題を解決するために地域に足を運んで自然を観察したり、地域の方からお話を伺ったり、体験を通して学びを深めます。これからの学習を通して、教師と子どもたちが野に咲く草花の神秘さ・不思議さや、地域で働く方の工夫や思いの尊さに気付き、共感できれば、子どもたちが学びに向かう姿が変わるのではないかと思います。

そこで保護者・地域の皆様にお願ひがあります。地域にはまだまだ、学校が知らない魅力あふれる教育資源（人・自然・施設等）がたくさんあると思います。地域の皆様が、お勧めする人材・場所・施設等がありましたらお気軽にお知らせください。地域の子どもたちを育むためには、地域の皆様のお力が必要です。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。